

令和6年4月教育長就任会見

期 日 令和6年4月1日（金）
時 間 15：00～15：40

出席記者 中国新聞、RCC、HTV、HOME、TSS、NHK、読売新聞、朝日新聞、共同通信、毎日新聞

【教育長就任挨拶】

本日、広島県教育長を拝命しました篠田です。

皆様方には、大変お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで、広島県教育委員会では、歴代の教育長のリーダーシップの下、信頼される公教育の実現、また、「学びの変革」を实践し、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材の育成を目指した教育を推進してまいりました。

本県教育のさらなる飛躍のため、引き続き「学びの変革」を推進し、広島県の「教育に関する大綱」に掲げられている「広島で学んで良かったと思える、広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」に向けて、誠心誠意、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

私自身、13年ぶりに再び広島県でお世話になることになりましたが、教育をめぐる状況は大きく変わっていると思っています。

したがって、まずは現場の様子や状況をよく拝見して、また、現場からの声に耳を傾けて、職責を果たしてまいりたいと思います。

そして、すべての子供たちの健やかな成長のため、職員の皆さんとともに力を合わせて、風通しの良い「教育県広島」にしていきたいと思っています。

記者の皆様には、広島県の教育について、取材の中から得られた考えや現状をお伺いすることもあると思います。

色々とお伺いし勉強させていただきながら取り組んでまいりたいと考えていますので、何卒よろしくお願いいたします。

【質疑応答】

読 売 新 聞： 先ほど広島を日本一の教育県にするということで、語っていただいたのですが、具体的に広島県のその教育を見て、どういう課題が今あって、それに対して具体的にどういうアプローチをしていきたいのかっていう、その具体的な説明や、方針であったりとか思いがあれば聞かせてください。

教 育 長： 具体的なところはこれから職員の皆さんからお話を聞いて進めていきたいと思っています。平川前教育長が進めてこられた学びの変革、全国から見ても、非常に挑戦的な、極めてチャレンジングに進めてきていると思っています。実際、個々の課題は学校ごとにそれぞれあると思います。個別最適な学び、主体的・対話的で深い学び、協働的学び、そういったものについてどこまで進んでいて、何が今障害となっているのかを、具体的にお伺いしながら進めていきたいと思っていますので、ちょっと今具体的に御質問されましたけれども、その点はまだ私の中で具体的なところが今こうやって語れないことは申し訳ありませんが、よく現場の声、それから状況を見て判断していきたいと思っています。

読 売 新 聞： 現時点で具体的なものは現場の声を聞きながらということでしたが、平川前教育長のこの功績で具体的に評価できる点であったり、逆にここは改善していかなくちゃいけないみたいな自分自身で考えられてる点っていうのがありますでしょうか。

教 育 長： 進んでいる点といたしましては、やはり学びの変革の中で、いろいろ学校によってやり方は異なると思いますが、それぞれ子供たちの学習進度に合わせた学びですとか、また不登校対策ですね。特に学校通いたくても通えない子の学びの場をしっかりと作って、そしてそれが子供たちにとって受け入れられるものであった。それを学校の中、またはス

クール“S”という形で居場所を作って、学ぶ環境を整えてこられたという点については、非常に評価というか、さらにやっていくことだと思います。

そういったものはしっかり受け継いで推進していくということだと思います。一方で、今課題と仰られましたけれども、一部私も報道で見聞きしてるところですので、一方的な見方になるのかもしれませんが、私といたしましては、教育行政は特に現場でその職責を果たしてこられている方とともになすべきものだと思います。教育委員会事務局だけでできる話ではありませんし、当然現場の先生方、そしてその目の前には子供たちがいるわけですので、そういった現場との意思疎通という面では、一つ課題があったように聞いております。したがって、先ほど申し上げましたけど、現場からの声に耳を傾けて、よくコミュニケーションを取りながら教育行政を進めていきたいと思っております。

毎日新聞： 毎日新聞社の安と申します。先ほど話していた平川前教育長の、意思疎通をもう少しすべきだったという箇所なんですけれども、前教育長の、官製談合防止法違反に当たるのではないかとといったそういった報道に関するコメントでしょうか。

教育長： いえ、私が報道で見て、つい最近からの報道ですので、そういった面も含まれるのかもしれませんが、一般的に行政を進めていくにあたって、やはり特に小中学校義務教育で言いますと、ほとんどが市町立学校ということで、市町とのコミュニケーションというのはやっぱり欠かせませんし、その中でお互いのリソースを何が出せるのか。その力を最大限発揮するためにはどうしていくのかといった、やっぱりそういう政策の中でのコミュニケーションというのは欠かせないと思っております。そういった点で、さらに進める余地があるのではないかとこのふうには思っております。

毎日新聞： もう一点なんですけれども、今ちょっと少し触れたんですけど、官製談合防止反疑惑の中で、一部、市民の方々からは、県教委に対してちょっと疑いの目を向けられている点もあると思うんですけど、そういった状況に対してどのように払拭されていくお考えなのか教えていただけませんか。

教育長： その件については、既に教育委員会の方で、対策をとっているところですので、まずはそれを着実に進めていくということですね。さらには行政の仕事ですので、そこは公平公正、法令遵守という点については当然のことです。私も国の行政を長年やってきておりますので、会計処理と会計事務、また法令等については承知していないわけではございませんので、改めて法令遵守の原点に立ち返ってしっかりとやっていくことだと思います。

R C C： 中国放送の平田と申します。今の質問に関連するんですけれども、法令に対する意識ということで、篠田さんはこれまで、文部科学省の方にいらっしゃったということで、その辺りはあのすでに御承知かと思うんですけれども、前任の方の場合と言いますか、組織のガバナンスとしてですね。個人が、そうしたコンプライアンスに関する行動をされた場合に組織としてですね、おかしいんじゃないかというような、指摘をすることがなぜできなかったかっていうところにもですね、問題が今回あったんじゃないかと思うんですが、その辺についてはどういうふうにお感じになって、どういうふうにしていきたいということがあれば、お話しいただけますでしょうか。

教育長： 今御指摘の点については、昨年ですかね、教育委員会の方でも調査報告を第三者の方でまとめられてると、こういうことで拝見をいたしました。やはりそこで書いているように、職員の皆さんの御指摘。それからお話を、まさにこう虚心坦懐に受け取るような姿勢ですか、それはまさにその通りだと思います。私も、これまで文科省を中心にですけども、教育行政をしてまいりまして、やはり日常的なコミュニケーションをいかにうまく取るのか、ということが非常に大事だと思います。組織で仕事をしますので、最終的にはトップの判断というところも場面によってはあると思いますが、それに至る過程の中で、しっかり議論していく、これおかしいんじゃないかっていうことがあれば、指摘をできるような、そういった関係性を日頃から作っていくことは非常に大事だと思いますので、改めてその点を意識していきたいと思っております。

- N H K : NHKの小野と申します。基本的なことになりますが、今朝、知事から辞令を受け取られたと思いますが、辞令を受け取ってどんなお気持ちになられたか、その心境の部分をお聞かせいただけますでしょうか。
- 教 育 長 : 今朝、湯崎知事から辞令をいただきました。議会後のぶら下がりでも申し上げましたけれども、改めて職責の重さに身が引き締まる思いをいたしております。本当に多くの子供たちの健やかな成長のために、しっかり職責を果たして行かなければならないなということをお聞かせいただきありがとうございます。
- N H K : その場では湯崎知事から何かお声かけとかあったんでしょうか。
- 教 育 長 : 儀礼的といいますか、辞令交付ですので、辞令を交付いただいたのみです。
- N H K : これまでに何か知事からですね。期待の声であったりとか、何かお話はございましたでしょうか。
- 教 育 長 : そうですね、具体的なところは、着任した後にしっかり教育の議論をしようということをお声かけいただいております。
- N H K : もう一つ、先ほどですね、13年ぶりに広島に戻ってきて、教育をめぐる状況が大きく変わっているというお話がございましたけれども、今教育長から見て一番変わってるなど感じられる点についてお伺いできますでしょうか。
- 教 育 長 : はい、私が以前、広島県教育委員会の教職員課長を務めていたとき、これは平成20年の9月からでありますけれども、広島県が当時の文部省からは正指導を受けてちょうど10年というところでして、この是正指導、教育の正常化といった点ではかなり成果が出てきておりますが、まだ不祥事に現れるように、正常化が完全に為しえていなかったのではないかなという思いがありました。それを今思いますと、そこをもうほぼクリアをして、いかに子供たちの学びを充実させていくのかといった教育の中身の話をすることができるようになっているのではないかなと思います。実際それを進められてきておりますし、様々な実践が教育現場ではされていると聞いておりますので、それをいかにより良いものが浸透し、何か現場で課題があれば、それを一つずつ改善していくということかなと思います。
- N H K : 私から次で最後にしたいんですけども、先ほどからもありました、これまでですね、文科省であったりとか、あるいは韓国大使館での、勤務のご経験とかですね。幅広くこうキャリアを積まれてらっしゃると思うんですけども、改めまして、ご自身の強みという部分ですね、教育行政のトップとして活かせる部分、この強みはどのようなところにあると感じられていらっしゃいますでしょうか。
- 教 育 長 : 私自身の強みですか。強みというのは難しいですね。やっぱり私一人では仕事できないので、チームで仕事をしてきたなというふうに思います。その中でやっぱりその時の上司、部下、同僚といかに充実した時間を過ごすことができるかということに意を汲んでまいりましたので、皆さんと一緒に仕事をするということについて、長けてるとは申しませんが、あの十分にやってこれた自負はありますので、再び広島県でお世話になりますけれども、皆さんとともに力を合わせてやっていきたいと思っております。
- H T V : 広島テレビの渡辺です。先ほど課題についてはこれからヒアリングして、具体的にその辺りをしていくってことだったんですけど、県の教育について実現したいアイデアとかですね。そういったものがあれば、平川さんは学びの変革というのを掲げて、それもやられるということですけども、篠田教育長が、実現したいアイデアみたいなことが現時点であれば教えていただきたいんですが。
- 教 育 長 : そうですね、あまりこう、奇をてらったアイデアというのは特段ございません。主体的・対話的で深い学びという、今の新しい学習指導要領が目指していること、それをしっかりやっていくということに尽きると思います。また、先ほど子供たちの健やかな成長とも申しますが、これは非常に残念なことでありますけれども、子供が自ら命を絶つようなことを、たびたび報道で目にしますけれども、そういったことはなしにしていきたいと思っております。

中国新聞：中国新聞の長久です。よろしくお願いします。今の話に関連すると、自殺をなくしたいということですが、例えば、その具体策と言いますか。どのようなイメージで問題に当たるか、お考えがあればお願いします。

教育長：これもいろんなケースがあるので何と言いますか、これをやれば、全て万事うまくいくものではないと思います。しっかり、これまでの不幸な事案にしっかり向き合って、どうすれば救えたんだろうかということ、我々が自分事のように考えて、それを政策に落とし込んでいくことだと思いますので、これをやれば、ということはないかなと思います。

中国新聞：分かりました。あと、いくつかありまして、人事案が可決されたタイミングの、囲みでもですね、個々の課題を現場を見ながら把握していきたいということでしたけれども、例えばどれぐらいの期間で何か所ぐらい回るかとかですね、どのように現場を見ていくかの部分のイメージなどあれば、教えてください。

教育長：はい、そこもイメージは特段持つてはいないんですけど、やはりあの相手があることで、気持ちとしてはできる限り早く、いろんな皆さんと話をし、現場を見て、ということをおもっていますけども、スケジュールと学校の状況を見て、計画的に進めていきたいと思っています。

中国新聞：分かりました。あと、今日仕事始めの式で、職員さんの方にメッセージを出されたのかなど、そういう話を聞いてるんですけども、どのようなことを、お話、メッセージを出されたのか、教えてください。

教育長：冒頭申し上げたような、13年ぶりに戻って参りましたということですか、またこれまでの教育長のリーダーシップのもとで成してきた広島県教育について触れた上で、私が仕事、特に行政の仕事をする上で、大切にしていることを3点申し上げまして、一つは、やはりこの、根拠ある行政をしていきたいと思います。物事、今やっている例えば、この会見でも、会見があるから会見をするわけじゃなくて、新しい教育長ってどんな人なんだろうとか、考え方はどうなんだろうかっていうことを知ってもらうため、またそれを発信されるためにこういった場があるんだと思いますけども、そういう、なんでこの仕事があるんだろうっていう根拠を大切にしようということ。それから、コミュニケーションを大事にしたいと思います。先ほど申し上げましたけども、特に教育行政は、現場なしにはありえませんが、現場の方に敬意を払って、そして現場に起きている情報をみんなでも共有して、そのコミュニケーションを図りながら仕事進めていこうということ。それから3点目。最後が健康が一番ですと、公私ともに充実した仕事、生活を送るためには健康が一番ですと、そのために効率的な仕事にもつとめますし、とにかく健康で皆さん頑張りましょうということを申し上げました。

中国新聞：分かりました。あと先ほどから出てますけれども、契約をめぐる問題をめぐって様々な再発防止策に取り組んで、現在進行形でやってると思うんですけど、教育長ミーティングであるとか、内部通報窓口の設置とかですね。こういったものを今後も続けていかれるかという点と、新たに例えば取り入れたい風通しをよくする施策について、もしあれば教えてください。

教育長：基本的に不祥事の防止の対策については継続をします。新たにというところで、特段今は、考えがあるわけじゃないんですけども、やっていく中で、あれば当然取り入れていきます。

中国新聞：あともう一つありまして、個々の政策になったら恐縮なんですけど、高校入試制度改革、2年前から新たな入試制度のもとですね。広島県は実施していて、内申書の簡素化だったり、自己表現の導入といった部分が、抜本的な見直しで、このほど春ですね。二回目の実施が終わったんですけども、この入試制度の方向性だったり、手法についてはどのように評価されてますか。

教育長：はい、入試については、子供たちが自ら進路選択をする上で、自分が高校で何をしたいのかということを考えて入試に臨むということだと思います。一方で入試は、入試が全てではないんですけども、進路選択、進路決定という意味で非常に大きなターニングポイントに

なる、人生の上でターニングポイントになるところでありますので、生徒本人も、それからその保護者の方にとっても、非常に大きなものだと思います。実施の上での改善点があれば、そこは改善をしていくということになると思いますけども、基本的には予定されていることについて、着実に推進していくということかなと思います。

中国新聞： 現行の大きな手法という部分は、本年度以降も、基本的には維持していくという理解でよろしいでしょうか。

教育長： 入試は私も、だいぶ前なんですけれども、教育再生実行会議の第4次提言を出したときは高大接続ということで、今の大学共通テストの導入になるような、きっかけとなる提言に携わったことがあるんですけども、それまでの大学センター試験から共通テストに変わるという時でも、相当な準備期間と、それから実施の困難さを乗り越えてきているものですので、基本的にその入試というのを変える、あるいは、改善を加えるっていう時には、十分な準備とアナウンスの期間が必要だと思っております。これまで2年やってきたということ踏まえつつ、マイナーチェンジで運用面を改善していくというのはあると思いますけども、基本的にはその方向でやってまいりたいと思っております。

中国新聞： 自己表現とか、そういう大きな部分は続けていきたいということで。はい、分かりました。

読売新聞： すいません、読売新聞の岡本と申します。追加でちょっとお伺いしたいんですけども、昨今、教職員の労働環境の改善っていうところで、全国的に注目されていて、県でも教育改革課ですか、今年度から新設されると思うんですけども、教育長として、教育現場のですね、職員の方々のその労働環境における今の現状の認識と、その改善に向けた何か思いとかこういうことをしていったらいいんじゃないかっていうような考えがあればお伺いしたいです。お願いします。

教育長： 私が以前教職員課長をしていたときも、働く先生方の勤務環境の改善っていうのは非常に大きな課題でありましたので、そこを強力に進めていきたいという思いは持っております。今、正直申し上げますと、学校の現場からちょっと文化行政が間挟みまして、直近のところを拝見してませんので、そこはよく見させていただきたいと思っておりますけども、この間大きな出来事としては、GIGAスクール構想によって、1人1台端末が、子供たちに配備されまして、そしてそれは当然教職員の情報環境ともつながることになっているわけですので、そういった情報端末を活用した校務改善というものが、実際どこまでできていて、どこに課題があって、どういった可能性があるのかということについては、割と早期に、状況を見て校務改善を進めていきたいと思っております。

読売新聞： 情報端末、要はITのそういった教育デジタルの部分で、それが実際現場で今どう活用されていて、それによって、先生たちの負担がどう減っているのかとか、そういうところを、聞き取り、声、データとかもより具体的に調査していくってことなんですか。

教育長： 調査、網羅的な、その項目調査というよりは、どういった活用しているのか、あるいは活用できてるのかっていうところを見ていきたいと思っております。我々もこう当たり前のように今パソコンを使っていて、どこでも仕事ができるような環境になっておりますけれども、それが果たして学校の中でどこまでできてるのかいうことは、よく見ていきたいと思っております。

N H K： 一応認識の確認だけさせていただきたくて、教育長として、やはりその教職員の皆様の労働環境の改善っていうのは必須、今後、見極めていくというか、改善を目指していく重要な課題であるというふうに、そういう認識であるということでしょうか。

教育長： 非常に重要な課題だと。

N H K： 分かりました。すみません。ありがとうございます。

R C C： すいません。中国放送の平田です。広島県ではですね、直近の課題としまして、人口減少と申しますか、これまでも、人材技術ってことあったと思うんですけども。お子さんの大学、進学の実績は自由であるということではあるんでしょうが、一方で人口流出という問題、人口減少ということが課題になってまして、この点、教育行政も関わってくるこ

となのかなという気もいたしますが、この辺り、篠田さんの問題意識といいますか、もしあればお聞かせいただけますでしょうか。

教 育 長 : はい。人口流出の問題は様々影響があると思います。教育だけではないんですけども、教育も非常に大きなファクターだと思います。大学を卒業した後の出口の問題でいきますと、どこに就職をするとか、どこで仕事するのかって言ったところになると思いますので、その大学生が、どういう自己実現をしたいのか、その自己実現する場が近くにあるのかどうかといった観点もあると思いますし、またその上の世代、子育て世代になりますと、教育環境ですとか、子育ての環境として、選択ができるような環境になってるのかっていうこともあると思います。そういった思い、それから考えに影響があるのも、教育の中で、特に地元で育てている、小学校はちょっとあれかもしれませんが、中学校、高校ぐらいになると、自分はどういう大人になってどういう自己実現をしたいのかということ、やはり考えるようになると思いますので、そういったところがつながってくるんじゃないかなというふうに思います。大学生の出口、大学から出て、子育て環境どこを選ぶのか、で、子育てしてみて、実際育ててみて、じゃあ自分がどこを選ぶのかって言ったらつながってくると思いますので、いろんな関係部署が県庁の中にもあると思いますから、よく、まさにコミュニケーションをとりながら、この課題に向き合っていきたいと思います。

R C C : 分かりました。ありがとうございます。